持続可能な公共交通サービスの実現にむけて

第３次秋田市公共交通政策ビジョン（地域公共交通計画）に基づく取組

秋田市における地域公共交通の現状と課題

面積｜906.07㎢　　**人口**｜296千人(R6.10)

鉄道｜秋田新幹線、奥羽線、羽越線、男鹿線
秋田駅乗車人員10,049人（2024年度、回復傾向）

路線バス事業者｜民間事業者１社
郊外部は市が主体となりコミュニティバスを運行

タクシー｜法人12社（約350台）、個人42者

○バス利用者の減少　直近25年間で半分以下
12,794千人(H11) ➡ 5,815千人(R6)

○人口減少・高齢化の進行
333千人(H17) ➡ 296千人(R6) ➡ 261千人(R27推計)

○高齢化はより一層進行
21.2%(H17) ➡ 33.5%(R6) ➡ 約46.8%(R27推計)

○低密度･外延化した市街地
ＤＩＤ面積は2.3倍に拡大（S45➡R2）

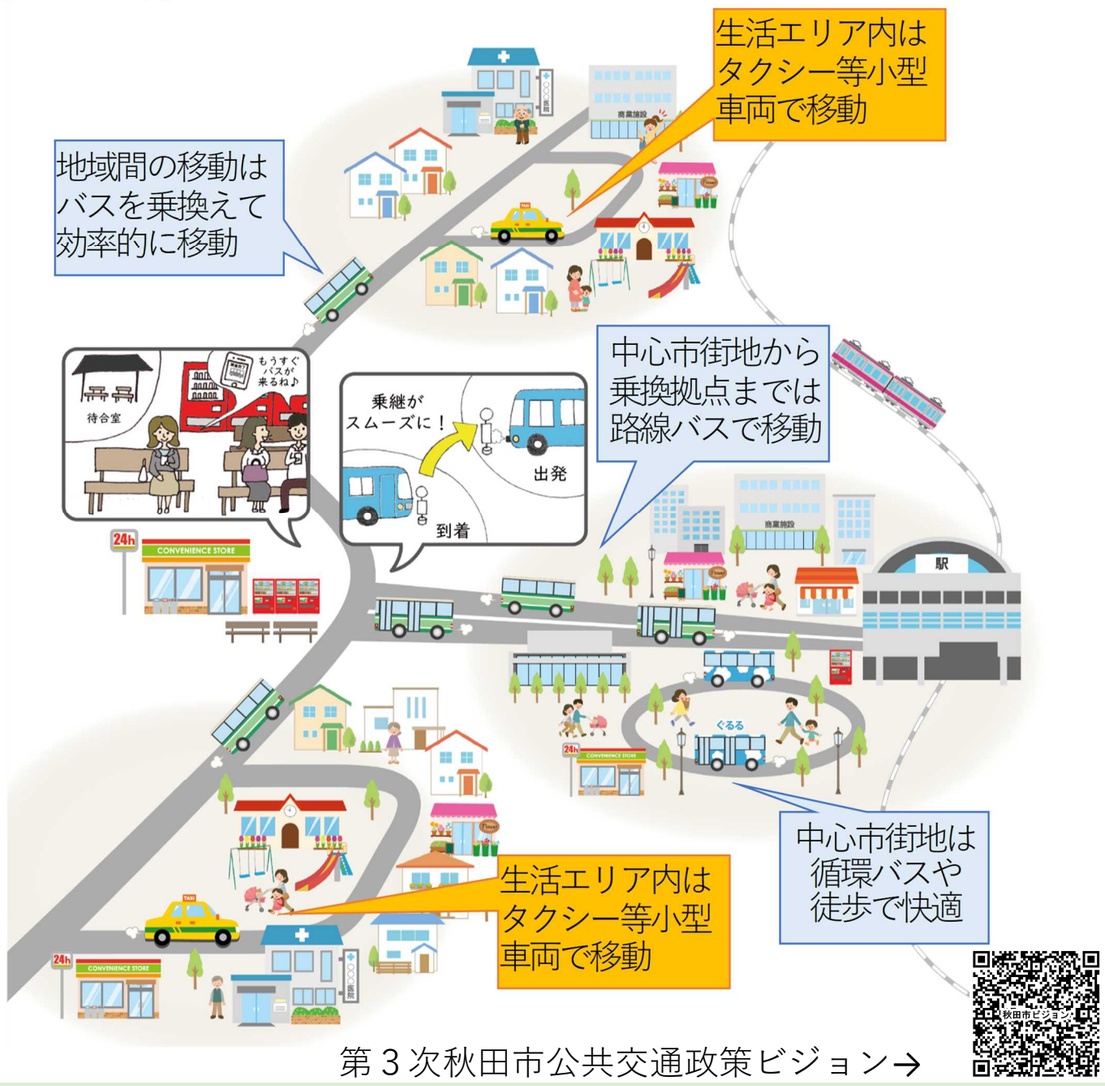
○高い自動車依存率
自家用車利用率　約72%
路線バス　3.7%　鉄道　1.1%

○運転士不足とバス路線の減便・廃止の進行
1,151便/平日（R2）➡ 837便/平日（R6）

○高齢者による交通事故の増加

秋田市が目指す将来の姿

誰もが必要な移動を自由にできる、
持続可能な公共交通サービスの実現



第３次秋田市公共交通政策ビジョン→

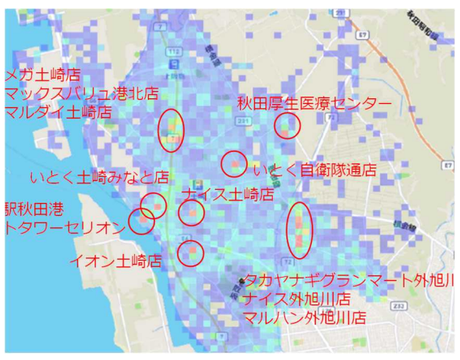
公共交通網再編検討

鉄道を骨格、幹線バスを大動脈、タクシー等を毛細血管とみなし、乗り換えを前提とした公共交通網への再編を検討。データ分析等により、時間帯により異なる路線網を提案。

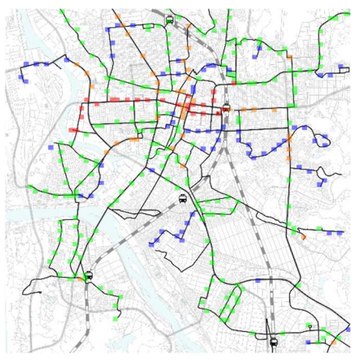
朝夕のイメージ
学校、駅等を結ぶ幹線と、その他支線による路線網

日中のイメージ
幹線バス等と短距離のデマンド交通による路線網

データ分析状況



▲人流分析

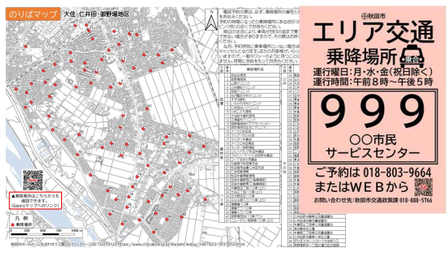


▲運行頻度分析

秋田市エリア交通の運行開始

路線バスの運行を補完し、セーフティネットとしての移動を確保するため、**「秋田市エリア交通」**の運行を開始

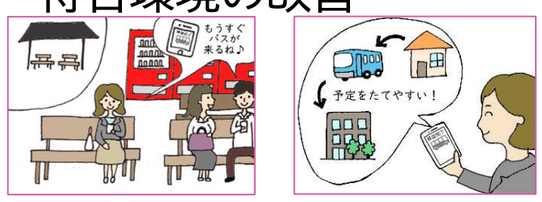
- ＡＩオンデマンド交通として、路線バスを補完し、短距離移動を担う
- 半径２km程度の生活圏において、生活交通として運行(現在４地区で運行)
- スーパーや医療機関など乗降場所を概ね200mごとに設置
- 地元コールセンターで一括予約受付(WEBも可)
- 一般タクシーを活用し、固定費を削減（専用車両・運転士は用意しない）
- 一定の認知度はあるものの、自家用車、徒歩・自転車からの移行に課題



計画の主な取組

- ICカードの導入

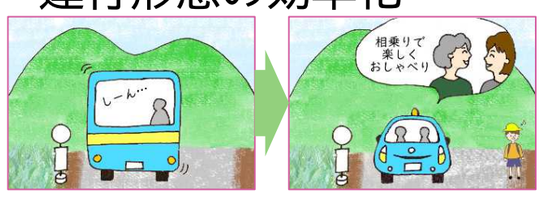
- 待合環境の改善



- スマホ等への情報発信

- 買物タクシー

- 運行形態の効率化



その他利便性向上に向けた主な取組

▲交通事業者の運転士募集事業への支援（Ｒ５～）

▲リアルタイムバス運行情報提供開始（バス事業者、Ｒ６．７）

▲秋田駅西口バス出発案内デジタルサイネージ（Ｒ７．４）

▲バスロケシステムGoogleマップ対応（Ｒ４．３）

▲バス事業者との連携協定締結（Ｒ６．４）

秋田市都市整備部交通政策課　直通：018-888-5766　E-mail：ro-urtp@city.akita.lg.jp